仙台市科学館
蒲生調査レポート　速報版

No.95

2015.10.7

〒981-0903　仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館　事業係
TEL:022-276-2201　FAX:022-276-2204
http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

蒲生干潟の地形調査⑤

■大きく地形を変えた河口付近

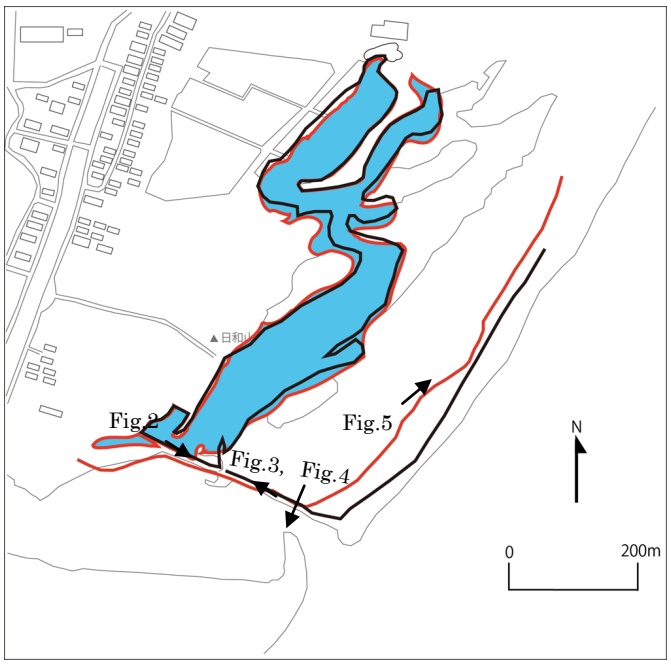

Fig.1　8月6日・10月5日の汀線 の簡易測量結果

Fig.4　激しく浸食された対岸

Fig.5　海岸に漂着した流木

Fig.2　砂に埋もれた導流堤

Fig.3　導流堤の南側に広がった砂州

調査日　10月5日（火）　11：40～13：30

この日の満潮時刻は11:58であった。8月の汀線を黒，10月の汀線を赤でしめした（Fig.1）。8月と比べると潟湖の面積が大きく拡大している結果となった。

大きな変化としては，今回の調査では導流堤が砂で完全に埋まり，潟湖への水の出入り口は閉ざされてしまっている事が明らかになった(Fig.2)。潟湖の南東の砂州に流水の痕跡があり，川から潟湖へ水が出入りする唯一の場所であった。調査時間は満潮なのにも関わらずこの溝には水が流れておらず，潟湖への水の出入りは無い状態であった。導流堤があった場所の南側は砂が堆積し，新たな砂州を構成していた(Fig.3)。8月に確認された河口付近の州は完全に見えなくなっていた。また対岸の砂浜も大きく浸食され河口の川幅が大きく拡大していた(Fig.4)。海からの波が川を大きく遡上し，今まで導流堤があった部分付近に堆積した砂は，遡上した波によって浸食されていた。このように河口付近のようすがすっかりと変化してしまっていた。海岸線には8月の調査では見られなかった大きな木が漂着していた（Fig.5）。海岸線も西に移動し砂浜の面積が小さくなっていた。

大きくようすが変わった河口付近の地形について，さらに調査を進めていきたい。

（中田　晋）